

会議録

会 議 名	第 2 回八王子市地域公共交通活性化協議会	
日 時	平成 20 年 8 月 19 日 ( 火 ) 午後 3 時 00 分 ~ 4 時 15 分	
場 所	八王子市役所 本庁舎議会棟 5 階 全員協議会室	
出席者氏名	委 員	別紙
	説 明 者	田中主幹 ( 交通政策室 )
	事 務 局	交通政策室 ( 田中主幹、中村主査、三ツ木主任 ) 交通事業課 ( 鎌田課長、平井主査、坂爪主任 )
欠 席 者 氏 名	山田委員 ( 市民公募 ) 鈴木委員 ( 学識経験者 ) 橋本委員 ( 道路事業部長 )	
議 題	<p>報告事項 ( 1 ) 西東京バス・多摩バス運営統一について他 2 件  ( 2 ) 山間地域交通改善モデル事業 ( 小津地域 ) 平成 19 年 10 月 ~ 平成 20 年 7 月 ( 報告 )  ( 3 ) 醍醐・降宿地区乗合タクシー運行実証実験概要 ( 山間地域モデル事業 )</p> <p>議 事 八王子市地域公共交通総合連携計画策定調査について</p>	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由	-	
傍 聴 人 の 数	0 名	
配 付 資 料 名	「会議次第」, 「構成員名簿」, 「席次表」, 「西東京バス・多摩バス運営統一について他 2 件」, 「山間地域交通改善モデル事業 ( 小津地域 ) 平成 19 年 10 月 ~ 平成 20 年 7 月」, 「醍醐・降宿地区乗合タクシー運行実証実験概要 ( 山間地域モデル事業 )」, 「八王子市地域公共交通総合連携計画策定調査について」	

## 1．開会挨拶

(副市長挨拶)

ご支援・ご協力により、6月2日から地域公共交通会議は、地域公共交通活性化協議会に移行された。市内公共交通の概況の説明があった。持続可能な地域公共交通総合連携計画の策定に向けて協力をお願いします。

(秋山先生挨拶)

バス交通は、10～15年前までバス事業者が自前でやっていた。コミュニティバスブーム以降自治体がバス交通を考え始めた。

今回のように市全体の公共交通について議論するようになったのは、新しい一歩で、恐らく今年が公共交通元年になると見ている。元年の意味は、市町村が自立して計画をしっかりとて、運営運行していくという流れがこれから作られつつあるということ。つまり、今まで、民間の自由裁量の下で行われていたものを市町村との連携の中でしっかり運行していくということ。

このように市町村が主役になって取り組んでいくことは、海外では20～30年前から行っていることで、その分遅れている日本の公共交通をどうやって立て直していくかということが最大の課題になっている。

## 2．報告

(報告1：西東京バスと多摩バスの路線の統合について)

西東京バス井上委員より説明

(秋山座長)

運営統一というのは、どういう意味なのか

(井上委員)

多摩バスの路線を西東京バスの路線に合併した。

(報告2：山間地域改善モデルについて)

事務局より説明

(秋山座長)

小津地域というのは、山間地域と呼んで良いのか？

(事務局)

周りは山の中なので、そうです。

(秋山座長)

人口密度(人/ha)はどれぐらいの規模か？

(事務局)

小津町の人口は、112世帯・281名で、市の普通の町会より広い面積があるので、人口密度は低い。小津地区は、道に沿って家がありその裏は山という地形。

(秋山座長)

普通のバスでは難しい地域という認識でよいか？

(事務局)

それでかまわない。

(報告3：醍醐・降宿地区の乗合タクシー実証実験運行について)

事務局より説明

(秋山座長)

4.実験方法で、月・金の2日間の運行とあるが、なぜ月・金なのか？

(事務局)

地元町会を通じたアンケートで、週2日運行するとしたらどの日が良いか？と聞いた結果である。

(小島委員)

この地域に障害者や車椅子を使っている方はいるのか？

(事務局)

障害者数については把握していない。高齢者世帯は多いと認識している。

(小島委員)

車椅子を使用して、乗合タクシーの乗り降りは可能か？

(事務局)

車椅子で乗合タクシーを使われる方について、自力で乗れるのであれば乗車可能。

(小島委員)

車椅子をタクシーに載せてもらえるのか？

(事務局)

折りたたみなら、トランクに可能。

(秋山座長)

この地区の人口が45人ですと、その3%が移動制約者なので、車椅子の方は1人いるかいないか。デマンド型を運行する場合、障害者・高齢者をどういった形で取り組むか？を将来的に考えた方がいいというご意見だったと思います。

特に、地域公共交通総合連携計画の後、残された課題として、障害者・高齢者の移動の問題がある。日本では、ほとんど計画がないが、海外は30年位前から取り組んでいて、その分の遅れを取り戻している段階。なので、ここも視野に入れた検討をしてくださいということ。

(今泉委員)

地元なのでわかるが、月・金は医者通いが多い。帰りの乗客が少なくなるのは、病院のバスを使っているから、行きと帰りの人数が違うのだと思う。

(下田委員)

小津地域について、運行実績として、上り通学70人、下り通学ほとんどなしとあるが、学校に行く時利用しているが、帰りはバスの運行時間に合わなくて、歩いて帰ったり家族が迎えにいらしているのか？

(今泉委員)

帰りは、学童に寄って、父兄と一緒に帰っている。

(事務局)

前回の会議で同じ質問があり、地元町会長に確認したところ、学童に父兄が迎えに来る。それで、午後便の利用が減っている。

(今泉委員)

小津にある元木小学校で、年に2、3回春と秋に校外学習に行っているが、昨年10月から路線バスの便数が減って使おうとすると、行きの時間は合わせられるが、帰りの時間の調整が難しく不便になっていると聞いているが・・・。

(秋山座長)

具体的な状況がちょっと掴めないのですが・・・。

(今泉委員)

地域にりんご園があり、授業で校外学習に行っているがすごく不便になった・・・  
学年2クラスで年に2、3回行っている。

(秋山座長)

年に2、3回ある元木小学校の校外学習時の路線バス利用について、公共交通でやるべきか、もっと別な委託等でやるべきか議論が必要。

(今泉委員)

会費の問題があり、今、バスを1台頼むのか、乗合バスを使っていくのか、非常に苦慮されている。

(秋山座長)

そのことについては議論しないといけないが、乗合バスもそのために運行すると結構お金がかかってしまう。年に2、3回程度のモビリティをどうするか？例えば、路線バスを強化するという議論もあるが、そこで強化した場合には相当経費がかさむので、その時だけタクシーなりバスをチャーターする方が総合的には安いかもしれない。両方のバランスで考えていくことで、地域のモビリティの重要な点であると思うのですが。

地域のモビリティとして重要な点なので、地域で困っていると指摘があったことを事務局の方で記録をお願いする。

(吉田委員)

醍醐について、乗客は固定客が乗っている状況なのかどうか？また、運行主体については、事業者がどう分担して運行しているのか？

(事務局)

固定客かどうかについては、9月に入ったらアンケート調査する。次回の会議で報告する。

事業者がどう分担して運行しているかについて、事業者は9団体で、各事業者で1週間分の月・金の運行を責任をもってやってもらう。実験期間を通して各社最低2回の週を受け持つ形。事業者にとって、事業所の立地といったことから、運行に参加するメリットを探っている段階。

(吉田委員)

この形の運行は、事業者にとって、通常のタクシー運行には全く支障なく、上手く空のタクシーを回している、という考えでかまわないか？

(事務局)

それで、かまわない。

(秋山座長)

醍醐・降宿の実験を終えた後、どうするかといった方針の大きな枠組みについて、今の段階で、こうしたいというのはあるのか。

(事務局)

今後、醍醐・降宿地域の自己負担のあり方を小津地域のやり方にあわせて、地元負担が必ず発生するようにする。運賃設定によって地元負担額が変わるので、乗った人の負担割合と地元負担の割合について、地元と詰めて行く必要があると考えている。

(秋山座長)

地元負担というのは、乗る人も乗らない人も共通に負担するラインと考えてよいか。

(事務局)  
それでよい。

(秋山座長)  
運賃は、乗る人だけが支払うことでよいか。

(事務局)  
それでよい。

(秋山座長)  
このバランスをどうするかが1つの大きな問題。サービス水準(午前2回運行、夕方2回運行)については?

(事務局)  
サービス水準については、利用満足度の点からもアンケート等で検証が必要。  
行き帰りの乗客の差や他に利用しているものについてといったことをアンケート調査で調べたい。  
他の交通サービスがある中で、地元の方がどの程度乗合タクシーを望むかといったことを検討する必要がある。

(秋山座長)  
月・金の曜日について、現在の月・金の運行でほとんど満足できているのか?それとも他の曜日がどうしても必要かについての設問がアンケート調査に必要と考えるが。

(事務局)  
それも必要だと思っている。

(秋山座長)  
時刻について、現在の発車時刻で大丈夫なのかということも聞いた方が良いのかも。

(事務局)  
分かった。

(土屋委員)  
ガソリン代が今年度かなり上がっているが、小津地区では、6月にかなりの利用者人数が増えている。この辺は、ガソリン高の影響が出ているのか。

(事務局)  
このことの分析は無い。町会を通じた聞き取り調査を実施し、明らかにしていきたい。

(土屋委員)  
了解。

(大和田委員)  
NPOの福祉有償運送の方で、人口透析患者の病院間の輸送人員や運行形態といったものは、きちんと把握されているのか。

(秋山座長)  
福祉有償運送でNPOの方が運行されている人数を把握されているかどうかについてはどうか。

(事務局)  
把握していない。

(秋山座長)

地域公共交通で、NPOあるいは、タクシーも含む境界領域なので、ぜひ確認をしてもらいたい。八王子は、そういったケースがいくつか出てきているはずなので、そういった意味で大事なところ。特に小津地域や他の過疎地域・中山間地域では、障害者や高齢者の輸送と一般の輸送を一緒にしていくような方向が結構出てくる可能性がある。

その場合に車両をどういったものを選択するかといったことが重要になる。セダン型ではいけない場合に、どういう車両を購入して方がいいのかといったことにも関わってくるので、例えば、タクシー会社にリフト付の車両を1台程度置いてもらうことや近々にユニバーサルタクシーが広がる可能性があるので視野に置いておいてほしい。

(事務局)

了解。

(吉田委員)

福祉輸送もそうだが、小津地域などにしても病院や診療所が通院のために送迎車を出しているはずで、それをその地域の人がどの程度利用しているのか?といった実態も合わせて把握された方が良いのでは。

(秋山座長)

地域の供給体制がどうなっているのかを総合的に調べて下さい。

それでは、報告事項は以上でよろしいですか。

### 3. 議事

(秋山座長)

八王子市地域公共交通総合連携計画策定調査について、事務局より説明願います。

(事務局)

これまでの経緯と幹事会の説明。幹事会は、吉田委員にまとめ役をお願いし、市の課長級の職員を委員として月1回ペースで開催する。幹事会の議題によっては皆さんにお声かけをいたしますので参加していただくことがあります。

(井上委員)

資料6の北西部地域における新たな交通システムの導入とあるが、今後の公共交通システムの導入方法を検討するというのは、小津地域と醍醐地域の両方をするという認識でよろしいか。

(事務局)

かまわない

(秋山座長)

今の3)のところで、小津と醍醐両方やりますということ。

(吉田委員)

期間が半年あるかないかの中で、かなりの分量をやる事になる。この中で、かなりの部分連携計画案が出来ると思うのですが、問題として、この連携計画が目指すものを絵に描いたモチにしないために、短期的にどこから動き出すかということと、もっと時間がかかるが、目指して行きたいところという2ステップぐらいに分けて考えていく必要がある。まずは短期の部分について行う。今、メニューとして色々書かれているが、事務局は、どこに重点をおいてやっていきたいと考えているのかを聞きたい。

(秋山座長)

極めて重要な質問。

(事務局)

事務局としては(3)の連携計画の中の2)はちバスの運行効率化と3)北西部地域における新たな

交通システムについて。

3) について、小津と醍醐については特に国の補助金を活用しながら、さらに検討し、より良い交通システムを作って行きたいと考えている。

(吉田委員)

はちバスの効率化にしても、醍醐や小津にしても、実施計画をたてるということは重要なのだが、一方で全体的な方針というものを定めておく必要がある。このことがむしろ大事では。

例えば、小津と醍醐にしましても、先般からいろいろこの会議でも話題になっておりますが、小津の場合はかなりの部分で地元負担しながら今のバスを運行している。当然ながら八王子駅から距離が遠くなればバスのコスト高になってくる。そういう地域に限って世帯数が少ないので負担が大きくなるのは当然。ですからその負担のルールを今は1/2で行っているが、どこまで市が面倒を見て、どこまでが地域の人達と協調しながらやっていくのかというルールを今一度、改めて考えるということが重要なのでは。

はちバスの運行効率化にしても、はちバスの利用促進策だけを考えた時に、場合によっては通常の路線バスが影響を受ける可能性がある。なので、はちバスのようなモノを全体の中でどこに位置づけるのかといったことを定めることが必要でしょうし、1)のようなことも必要かなと思う。

八王子駅から甲州街道までの区間は、あれだけ多くのバスの本数が走っていますから、上手く見せれば、八王子のバスはかなり使えるのではないのか。

本数が走っている所だと見せることを上手くやると、かなり光るものになるのでは。それが、まちづくりの1つの道具、1つの新しい血液になるので、まちづくりにプラスになると思う。

いくつか軸となるところをベースにこの3点ぐらいで考えるのが良いのかなと提案させてもらう。

(秋山座長)

今、吉田委員に提案していただいた点

負担のルールでモビリティの最低保障をどうするか議論が1つと全体のネットワークをもう少しちゃんとしたらどうかということ。恐らく、幹線と準幹線、あるいは交通貧困地域(小津地域など)なのだと思う。

こういったところの色分けをして、こうゆう戦略でいくということを明確に出しておくのが、課題の整理と都市像を整理するということにあると思う。

はちバスの運行効率化については、全体の中ではちバスをどう位置づけるか?ということだが、そもそもコミュニティバスは、全体の中で位置づけがなければならぬということを肝に命じておいて頂きたい。なので、単に運行本数の効率化だけでは済まないという意味だと思うので、ここの所の整理をして頂きたい。特に、急ぎは(1)~(3)までの大まかなストーリーを1ヶ月位で作ってみてはどうだろうか。その大まかなストーリーが方向が違っているのか、軌道修正したほうがいいのかを確認することが1ヶ月の間に1回位やったほうが良いと客観的には思う。まず、大きなストーリーを1度作って頂きたいと思う。

幹事会が設定されたので、幹事になられた方や協力を要請された方はぜひよろしく。

ただ今の連携計画については、これからスタートをきらせていただくということでお願いします。

この連携計画をこれからどういうふうに進めるかというスケジュールなどともありますのでその他とあわせて事務局より説明願います。

(事務局)

今後のスケジュール、進め方について説明。

第3回の協議会は、実証実験の結果が出る時期にあわせて、11月か12月に開催したい。場合によっては11月と12月の2回開催することもあります。来年4月以降に国庫補助を導入してその事業の実現に向けて進むためには、遅くとも3月上旬には活性化協議会を開催しますので、協議会で認められるような連携計画を策定していきたいと考えています。

(秋山座長)

バス会社やタクシー会社の方にも積極的に八王子のモビリティニーズをしっかりとっていただくために重要な方々ですので、様々な面でご協力をお願いしたい。

#### 4. その他

(天賀谷会長)

今、秋山先生からお話がありました、1ヶ月ぐらいで大きなストーリーをまとめてそれを確認しながら細かい作業にとりましたが、確認の仕方ですが、この協議会の中で確認をされると思うのですが、そういう流れでよろしいでしょうか。

(秋山座長)

協議会の中ではなく、まず1ヶ月ぐらいの間にストーリーを作って、それを何回か練り直すことになる。こんな方向で行くということが固まった段階で、協議会を開いた方が良かった時に、協議会を開いて頂ければと思う。1ヶ月というのは、むしろ素案を1ヶ月で作るという意味。

その後、それを幹事会でたたいていただくという流れでやっていただけたらと思います。

幹事会の進め方ですが、今回大きなストーリーをまず事務局から案を出して頂いて、幹事会で1度か2度揉んで頂いて、ある程度成案に近い段階にきましたら、協議会の中で報告させて頂くという形で進めたいが、よろしいでしょうか。

(一同)

了解との声あり。

(秋山座長)

それでは、そういう形で進めさせていただきます。

#### 5. 閉会挨拶

(吉田委員挨拶)

今日は活発なご議論をしていただきありがとうございました。今日で第2回の協議会ということでコンサルも決まり、連携計画の中で概ねどういった形で調査するのかというところが定まったと思いますが、私たちに残されているのが半年ということですが、これから私も幹事会で関わらせていただきますが、私なりに3つの論点を述べた。

全体的な総花的な計画も重要だが、一方で、絵に描いたモチにならないように、どういう形で取り組んでいけばよいかという所を重視して取り組んで行きたい。そのためにも、委員の皆様からご意見を頂きたい。

(終)